

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300335	事業の開始年月日	平成27年7月1日	
		指定年月日	平成27年7月1日	
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語たかつナーシング			
所在地	(213-0023) 神奈川県川崎市高津区子母口777			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和3年2月12日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月8日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のためご家族様による面会にご遠慮いただいております。そのような中で、少しでも心配や不安が軽減できるようご利用者様とご家族様が電話ができるようにしたり、ご利用者様の日々の様子を写真と共に手書きの手紙でお伝えするようにしています。また、施設で発行している新聞では、感染防止のための消毒・換気・職員の検温等の情報を積極的に発信するようにしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年3月19日	評価機関 評価決定日	令和3年5月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR南部線「武蔵溝ノ口」駅、東急田園都市線「溝の口」駅からバスで15分ほどの閑静な住宅地にあります。敷地内に看護小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、日中は看護師が常駐し、医療行為も受けられます。法人は、神奈川県を中心に200ヶ所以上のグループホームや小規模多機能型居宅介護事業所、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム、介護付有料老人ホームなどの福祉施設を運営する株式会社です。

<優れている点>

事業所理念「一日でも長く穏やかな生活と一回でも笑顔でいられる私の居場所」を大切に支援しています。終末期で帰宅願望の利用者と家族の思いを医師・看護師・職員で感染対策・容体急変時の対応を協議し支援しています。理念の「一回でも笑顔でいられる」支援が、家族からの感謝の言葉に表れています。利用者のADLの維持改善に努めています。入居時に要介護度2だった利用者が、毎日自室の清掃をすることを入れた介護計画を実行して要介護度1に改善したり、失禁が多かった利用者が、定期的な声掛けでトイレで排泄できるようになった事例があります。

<工夫点>

コロナ禍の面会自粛で家族から意見や要望が聞けなくなり、メール、電話、手紙など、家族の生活スタイルに合わせた連絡手段に変更しています。利用者の生活の様子がわかる「なーしんぐつうしん」を毎月、手書きの手紙も年数回送り、家族に「普段の様子がよくわかる」と言ってもらえるように工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語たかつナーシング
ユニット名	1ユニット (3F)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご利用者様・職員・地域の方々が笑顔で過ごすことができるよう理念の共有に努めています。	理念は開所時の管理者が職員と相談して決め、リビングと事務所内に掲示しています。管理者は朝礼や研修で説明し、職員も研修で話し合い、方向性を統一しています。終末期の利用者の帰宅願望を実現して理念の「一回でも笑顔でいられる私の居場所」を叶えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域の方との交流は行っておりませんが、事態が収束したら再び地域の方との交流を積極的に図っていきたいと思います。	町内会に加入し、コロナ禍の自粛以前は近隣公園でのラジオ体操や隣接する教会のクリスマス会に参加したり、中学校の体育祭を見学しています。ボランティアのハーモニカ演奏も楽しんでいます。隣家の住民とは散歩の途中で談笑しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症に関する情報発信を積極的に行えるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は運営推進会議は書面での開催となっております。	コロナ禍以前は2ヶ月に1度、区役所高齢障害支援課職員、地域包括支援センター職員、町内会々長、家族、利用者の参加で開催していますが、現在は書面開催となっております。参加者から事業所が発行している新聞で普段の様子がよくわかるとの意見が出ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区の高齢・障害課担当者や地域包括支援センターの方々と日頃より連絡を図りご利用者様に関して情報共有を行っています。	運営推進会議の議事録を区役所と地域包括支援センターに提出して情報を共有したり連絡をしています。行政から近隣の公園で行われているラジオ体操への参加のアドバイスを受けています。川崎市主催の集団指導講習会に参加しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	等当施設では、身体拘束は一切行っておりません。また、身体拘束・虐待に関する研修を行うことにより、職員の意識を向上を心がけています。	「身体拘束・虐待防止」の研修で他事業所の事例を話し合い、自己チェックを行って意識を高めています。管理者は朝礼でも話をしています。管理者は職員の不適切な支援に気が付いた時は面談で再発防止を話し合い、他職員と共有しています。身体拘束廃止委員会は運営推進会議と同時開催です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修を行い、高齢者虐待防止法について学んでおります。また、活発な意見交換を行う事により虐待が見過ごされない環境づくりを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	青年後見人制度を学ぶ機会を持ち、支援が必要な方に活用できるようしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご契約時には、ご利用者様・ご家族様に安心していただけるよう十分な時間をとり、納得のいくまで説明を行っています。また契約後も疑問点等があればいつでも連絡していただけるようお伝えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様・ご家族様、職員の意見が反映されるよう努めています。	コロナ禍以前は面会時に意見を聞いていましたが、現在はメール、電話、手紙など、家族の生活スタイルに合わせた連絡手段にしています。生活の様子を記載した「なーしんぐつうしん」を毎月、手書きの手紙も年数回送っており「普段の様子がよくわかる」と好評です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が職員を個別面談を行い意見や提案を聞くようにしています。聞き取りだけで終了せず上司に報告し反映できるように努めています。	ミーティングや朝礼、職員との日常的な会話で職員から意見や提案を聞いています。個別面談は年2回行っていますが、気になる様子の時や新人には都度行っています。職員から、コロナ禍でも感染予防しながら近隣を散歩するという提案があり、現在実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりが、やりがいを感じ勤務できるような環境を整えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修だけでなく、外部研修に参加しています。また、無資格者には奨学金制度の案内を行って資格習得を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡協議会に管理者が出席同業他社との交流を行っていましたが今年度は新型コロナウイルスのため交流は行っておりません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始前にご本人様の不安や困りごとを十分に聞き取りを行い職員と情報共有を行う事で、ご本人様に安心していただけるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	現在は新型コロナウイルス感染拡大帽子のため、入居後はご家族様による面会をご遠慮いただいております。このためご入居前にご家族様と十分な面談時間をとり困りごとや不安を取り除いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様・ご家族様と十分な話合いを行う事により必要なサービスを見極めております。必要に応じてリハビリ等の紹介も行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個々の能力に応じて、生活援助を行っています。日々、職員と共に掃除・食器拭き・洗濯物たたみなど行うことで信頼関係を築いていけるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会が思うようにいかない状況ですが、ご本人様とご家族様との絆が絶えぬよう、電話や手紙等で連絡を取り合い、ご本人様を支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、面会はできませんが、絆が絶えることのないよう電話などでコミュニケーションを図っています。	入居前の馴染みの情報は家族から聞き取り支援に活かしています。コロナ禍以前は友人や近所の知人が訪問し、好きな場所で歓談し湯茶でもてなしています。電話をかけたたり年賀状や手紙のやり取りの支援もしています。家族と馴染みの美容院や墓参りに行く人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係性を重視しその都度席替えを行っています。また居室にこもりがちな方には職員がお声かけを行い他者との交流を持てるよう支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用者様のご家族様には折々にお手紙をさしあげています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃よりご本人様の希望をくみ取れるよう努めています。また、ご本人様の希望が実現できるよう職員間で情報共有しています。実現が困難な場合はご本人様にとって何がベストかを考支援を行っています。	入居前の情報はアセスメントで把握しています。利用者のやりたいこと・食べたい物は談笑の中で把握しています。把握した思いは朝礼や申し送りノートに記載して伝え、共有しています。カラオケの要望があり、機器を購入して利用者間の交流が増えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前にご本人様・ご家族様と面談を行いアセスメントを作成し馴染みの生活が保持できるよう努めています。また、サービス開始後も経過観察を行い生活支援に反映できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様一人一人に合った一日を過ごすことができるよう心身の変化に留意し支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様にとってより良い生活が送れるよう、日頃のささいな変化も見逃さないよう注意しています。また、ご家族様とも連携し意見を反映したケアプランの作成に努めています。	介護計画は計画作成担当者・職員・医療職の意見を聞いて作成し、本人、家族の承認を得ています。モニタリングは本人の様子と家族の意見を聞いて3ヶ月ごとに行っています。計画に、毎日自室の清掃を行うことを入れた利用者が要介護2から1に改善した事例があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者様の状態を記録し、介護計画作成時に反映できるようにしています。また、細かな変化にも対応できるよう職員間の情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限りご本人様やご家族様の意向を反映できるようにしていますが、外出支援に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため控えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため傾聴ボランティア等の受け入れは控えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご入居後は全員、当施設の協力医をかかりつけ医としていますが、ご入居前のかかりつけ医との情報共有を行い必要に応じて受診していただいています。	利用者は、入居前に説明を受けた上で事業所の協力医をかかりつけ医としています。内科の往診が月2回、看護師が月に6回日中勤務しています。看護師不在時には併設の「看護小規模多機能型居宅介護事業所」の看護師が対応し、適切な医療を受けられる体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員・介護職員と情報共有を行いしっかりと個別対応できるよう往診報告書も作成しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院時より、医療機関と・ご家族様と情報交換を行っています。早期に情報診療提供書を当施設の協力医と共有し退院後も安心して生活していただけるよケアを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族様に看取りに関する資料をお渡しし説明を行っております。早い段階でご利用様の状態をお伝えしています。その上でご家族様の思いを叶えることができる様、関係各所との連携を図っています。	入居時に看取りの契約を行い、必要になった段階で医師から家族へ説明を行います。その後、管理者および看護師を交えて意向を聞き、会議を開いて職員に伝えていきます。職員は終末期の研修を受け、よりよい支援が出来るように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご利用様の急変時や事故発生に関するマニュアルを作成し研修を行っています。また、応急手当等の初期対応は看護師に指導をしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	入り口には災害時に備えて防災マップを置いています。また、年2回災害時に備えた避難訓練を行っています。	年2回、夜間、日中、火災、地震の各想定を組み合わせ避難訓練を行っています。今後は水害を想定した訓練も行う予定です。今年度はコロナ禍のため、消防署の立ち会いはありません。飲料水、非常食、紙パンツ類などを3日分備蓄しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄介助のお声かけ等、ご本人様の尊厳を保持するため職員には接遇に関する研修を行っています。	管理者は、尊敬の念を持って利用者と接するように職員へ伝えていきます。職員は接遇研修、朝礼、自己チェックなど、折に触れて確認しています。職員に不適切な対応があった場合には、管理者は面談を行って振り返りをし、再発防止について話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者さまの想いを引き出すことができるよう傾聴することの大切さを職員に指導しています。また、ご利用者様の自律支援につながるケアを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先になっていないか・傾聴するときはご本人様ときちんと向きあっているかを日頃より意識して支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様のお好きなお洋服・髪型・整髪料等おしゃれを楽しめることができるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々に合わせて食事量を調整しています。また、ご自身で下膳できる方にはしていただいたり、テーブルを拭く等の準備・片付けを職員と一緒にしています。	献立と食材は外部委託しています。全国のご当地グルメ、鰻やちらし寿司など季節に合わせた行事食などを毎月提供しています。テレビで食べ物の特集を見ている時や日常の会話から食べたいものを聞き出すようにし、食事を楽しめるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の水分量に留意し。摂取量が少ない方にはお声かけを行い水分量の確保を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っています。また、訪問歯科医の指導の下、一人ひとりに合わせたケアを行い清潔の保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツやリハビリパンツを使用されている方でも定期的にトイレのおこ	尿意のない人もトイレでの排泄が大切と考え、利用者の状態に合わせた声掛け誘導をしています。声掛けは大きな声で伝えないよう配慮しています。入居時に失禁が多かった人が定期的な声掛けでトイレで排泄し、失禁がほぼ無くなった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然な排便ができるよう体操を行ったり、乳製品を取るなどし、なるべく薬に頼らない排便ができるように努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用様が入浴を楽しめるよう個浴を行っています。また入浴に拒否がある場合は時間を変えたり、日にちを変更し個々に応じた支援を行っています。	週2回午前中に入浴しています。季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんでもらっています。つまり立ちが出来ない人は基本シャワー浴となりますが、寒くないようにタオルを巻いた上からシャワーをかけるなど、配慮をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人様の入眠のタイミングに合わせて、入眠のお声かけをするようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	事務所と各フロアごとに薬情を置き用法や容量が変更になったときには瞬時に対応しています。服用に関しては、ダブルチェック		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々のアセスメントを把握し、編み物や書道・塗り絵や切り絵・脳トレ、体操等様々なレクリエーションを行っています。また、おやつ等はご本人様の嗜好に合わせて物を提供できるよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ以前は、外食や買い物等の支援も行っておりましたが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため積極的な外出は行っていません。近隣の散歩は行っています。	コロナ禍のため、事業所周辺や敷地内を散歩したり、玄関先の寄せ植えを眺めたりして外気浴をしています。例年は、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで買い物したり、家族や職員と外出し、季節の花見に出かけるなど、戸外の景色や空気に触れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設では、現金の所持は行っていませんがご本人様が希望されたものを購入できるよう支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍で面会ができないので、不安や心配がないようこちらからご利用者様とご家族様と連絡がとれるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日頃より共有空間の清潔を心がけていますが、コロナ禍もありより一層衛生面に注意しています。共有空間の壁には季節ごとにご利用者様の書道や塗り絵・季節ごとの壁画制作を展示しています。	建物内は毎日の掃除をはじめ、空気清浄機を置き、衛生面も更に注意して快適な住環境となるように努めています。利用者と職員は、季節に合わせた作品と一緒に作り、リビングに飾っています。リビングのソファは、気の合う利用者同士で談笑したり、思い思いに過ごすスペースとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間の窓際にはソファが設置しており、それぞれ思い思いに座られ日向ぼっこや、ご利用者様同士で談笑されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご家族様の写真やご自身で制作した作品等を壁に飾っています。また普段ご本人様が使い慣れた家具を使用していただき、居心地のよい空間づくりをしています。	利用者は、家族の写真や手紙、自分で作った作品など、好みや馴染みの品々を自由に持ち込んで暮らしています。毎日の清掃では、ベッド柵、手すり、ドアノブなどの消毒もしています。乾燥を防ぐため濡らして消毒をしたバスタオルを置いてあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員がご利用者様の状態の変化に対応しながら、個々にあった自立・自律支援を行っています。		

事業所名	花物語たかつナーシング
ユニット名	1ユニット (2F)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご利用者様・職員・地域の方々が笑顔で過ごすことができるよう理念の共有に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域の方との交流は行っておりませんが、事態が収束したら再び地域の方との交流を積極的に図っていきたいと思います。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症に関する情報発信を積極的に行えるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は運営推進会議は書面での開催となっております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区の高齢・障害課担当者や地域包括支援センターの方々と日頃より連絡を図りご利用者様に関して情報共有を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	等当施設では、身体拘束は一切行っておりません。また、身体拘束・虐待に関する研修を行うことにより、職員の意識を向上を心がけています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修を行い、高齢者虐待防止法について学んでおります。また、活発な意見交換を行う事により虐待が見過ごされない環境づくりを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	青年後見人制度を学ぶ機会を持ち、支援が必要な方に活用できるようしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご契約時には、ご利用者様・ご家族様に安心していただけるよう十分な時間をとり、納得のいくまで説明を行っています。また契約後も疑問点等があればいつでも連絡していただけるようお伝えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様・ご家族様、職員の意見が反映されるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が職員を個別面談を行い意見や提案を聞くようにしています。聞き取りだけで終了せず上司に報告し反映できるように努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりが、やりがいを感じ勤務できるような環境を整えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修だけでなく、外部研修に参加しています。また、無資格者には奨学金制度の案内を行って資格習得を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡協議会に管理者が出席同業他社との交流を行っていましたが今年度は新型コロナウイルスのため交流は行っていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始前にご本人様の不安や困りごとを十分に聞き取りを行い職員と情報共有を行う事で、ご本人様に安心していただけるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	現在は新型コロナウイルス感染拡大帽子のため、入居後はご家族様による面会をご遠慮いただいております。このためご入居前にご家族様と十分な面談時間をとり困りごとや不安を取り除いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様・ご家族様と十分な話し合いを行う事により必要なサービスを見極めております。必要に応じてリハビリ等の紹介も行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個々の能力に応じて、生活援助を行っています。日々、職員と共に掃除・食器拭き・洗濯物たたみなど行うことで信頼関係を築いていけるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会が思うようにいかない状況ですが、ご本人様とご家族様との絆が絶えぬよう、電話や手紙等で連絡を取り合い、ご本人様を支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、面会はできませんが、絆が絶えることのないよう電話などでコミュニケーションを図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係性を重視しその都度席替えを行っています。また居室にこもりがちな方には職員がお声かけを行い他者との交流を持てるよう支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用者様のご家族様には折々にお手紙をさしあげています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃よりご本人様の希望をくみ取れるよう努めています。また、ご本人様の希望が実現できるよう職員間で情報共有しています。実現が困難な場合はご本人様にとって何がベストかを考支援を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前にご本人様・ご家族様と面談を行いアセスメントを作成し馴染みの生活が保持できるよう努めています。また、サービス開始後も経過観察を行い生活支援に反映できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様一人一人に合った一日を過ごすことができるよう心身の変化に留意し支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様にとってより良い生活が送れるよう、日頃のささいな変化も見逃さないよう注意しています。また、ご家族様とも連携し意見を反映したケアプランの作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者様の状態を記録し、介護計画作成時に反映できるようにしています。また、細かな変化にも対応できるよう職員間の情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限りご本人様やご家族様の意向を反映できるようにしていますが、外出支援に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため控えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため傾聴ボランティア等の受け入れは控えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご入居後は全員、当施設の協力医をかかりつけ医としていますが、ご入居以前のかかりつけ医との情報共有を行い必要に応じて受診していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員・介護職員と情報共有を行いしっかりと個別対応できるよう往診報告書も作成しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院時より、医療機関と・ご家族様と情報交換を行っています。早期に情報診療提供書を当施設の協力医と共有し退院後も安心して生活していただけるよケアを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族様に看取りに関する資料をお渡しし説明を行っております。早い段階でご利用様様の状態をお伝えしています。その上でご家族様の思いを叶えることができる様、関係各所との連携を図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご利用様様の急変時や事故発生に関するマニュアルを作成し研修を行っています。また、応急手当等の初期対応は看護師に指導をしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	入り口には災害時に備えて防災マップを置いています。また、年2回災害時に備えた避難訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄介助のお声かけ等、ご本人様の尊厳を保持するため職員には接遇に関する研修を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者さまの想いを引き出すことができるよう傾聴することの大切さを職員に指導しています。また、ご利用者様の自律支援につながるケアを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先になっていないか・傾聴するときはご本人様ときちんと向きあっているかを日頃より意識して支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様のお好きなお洋服・髪型・整髪料等おしゃれを楽しめることができるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々に合わせて食事量を調整しています。また、ご自身で下膳できる方にはしていただいたり、テーブルを拭く等の準備・片付けを職員と一緒にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の水分量に留意し。摂取量が少ない方にはお声かけを行い水分量の確保を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っています。また、訪問歯科医の指導の下、一人ひとりに合わせたケアを行い清潔の保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツやリハビリパンツを使用されている方でも定期的にトイレのおこ		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然な排便ができるよう体操を行ったり、乳製品を取るなどし、なるべく薬に頼らない排便ができるように努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用様が入浴を楽しめるよう個浴を行っています。また入浴に拒否がある場合は時間を変えたり、日にちを変更し個々に応じた支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人様の入眠のタイミングに合わせて、入眠のお声かけをするようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	事務所と各フロアごとに薬情を置き用法や容量が変更になったときには瞬時に対応しています。服用に関しては、ダブルチェック		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々のアセスメントを把握し、編み物や書道・塗り絵や切り絵・脳トレ、体操等様々なレクリエーションを行っています。また、おやつ等はご本人様の嗜好に合わせた物を提供できるように努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ以前は、外食や買い物等の支援も行っておりましたが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため積極的な外出は行っておりません。近隣の散歩は行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設では、現金の所持は行っておりませんがご本人様が希望されたものを購入できるよう支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍で面会ができないので、不安や心配がないようこちらからご利用者様とご家族様と連絡がとれるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日頃より共有空間の清潔を心がけていますが、コロナ禍もありより一層衛生面に注意しています。共有空間の壁には季節ごとにご利用者様の書道や塗り絵・季節ごとの壁画制作を展示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間の窓際にはソファが設置しており、それぞれ思い思いに座られ日向ぼっこや、ご利用者様同士で談笑されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご家族様の写真やご自身で制作した作品等を壁に飾っています。また普段ご本人様を使い慣れた家具を使用していただき、居心地のよい空間づくりをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員がご利用者様の状態の変化に対応しながら、個々にあった自立・自律支援を行っています。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 花物語たか）T-シシク

作成日: 令和3年6月16日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束虐待防止の研修は行っているが、新人職員に向け研修を行う必要がある	身体拘束・虐待防止の研修時までに必ず研修を行う	オリエンテーションの中に身体拘束・虐待防止の研修を組み込んでいく	1ヶ月
2	35	災害対策の訓練を行っているが、毎日全職員が参加できるようにしてもらうための課題	全職員が参加できるように訓練を2回から3回に増やしていく	シフト作りから負担し職員が参加しやすい時間帯に訓練を行っていく	3ヶ月
3	51	コロナ禍のため現在は緊急時以外は面会を中止していますが、この為利用者や家族の関係をどの様に維持していくか	利用者のワクチン接種が終了し1ヵ月過ぎた頃に短時間の面会を再開する	マスクの着用・消毒をしっかり行い、家族との面会再開に向け準備していく	2ヶ月
4	41	水分摂取量が少ない方への水分提供のやり方。どの様に水分を摂取してもらうのか	こ水からの希釈は着くなっていくため、なるべく多くの水分を摂取していただく	1日の水分量を50ml程度で提供することで負担を少なくし、回数も多くし摂取量を増やす	4ヶ月
5	40	現在はコロナ禍ということもあり外食ができませんが、個々に食べたい物を食べられない	食事を楽しむことが出来る様行事ごとにテリバリーを利用し、メリハリのある食事にする	食べることに意欲を失わないよう希釈などのメニューを取り入れていく	6ヶ月